今から約1750年前の富山平野の王の墓か？

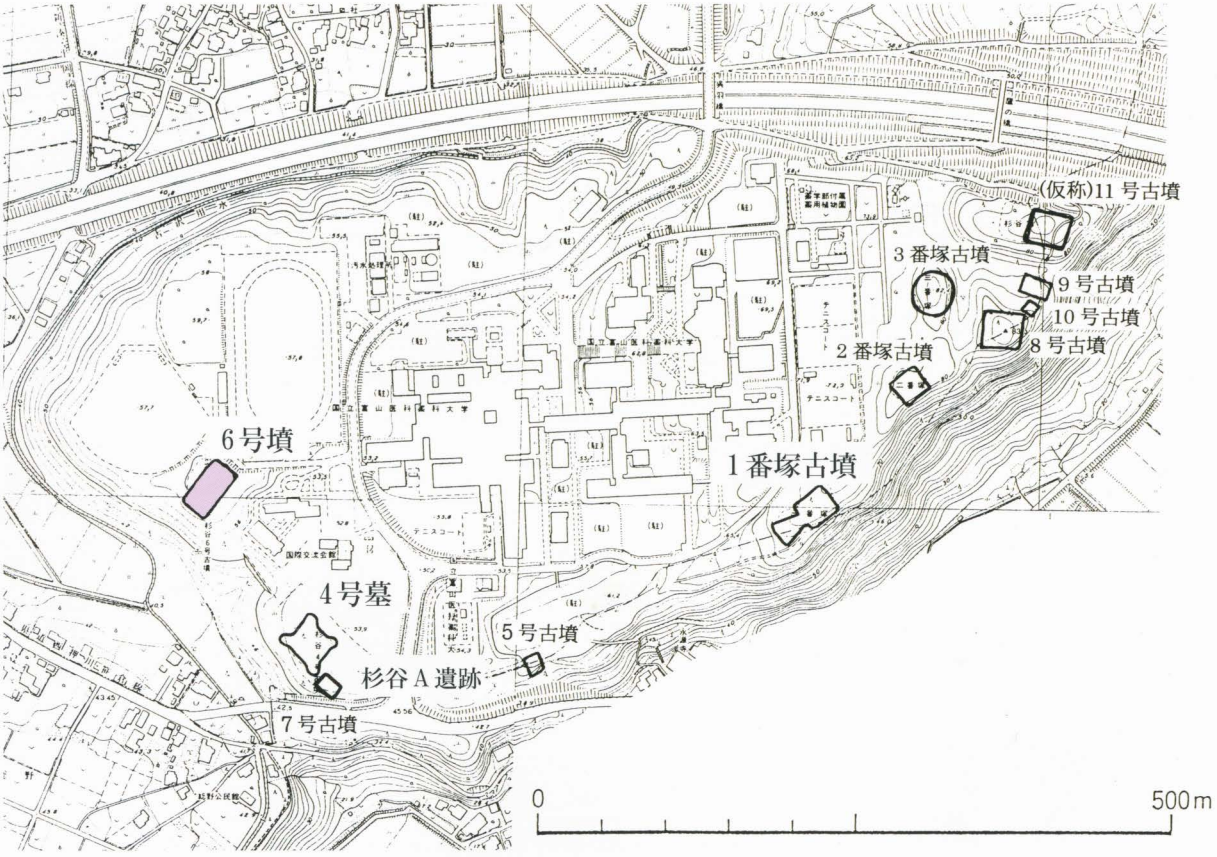
富山市　杉谷6号墳　現地説明会資料

平成22年9月4日(土)　10：00～12：00
富山大学人文学部考古学研究室

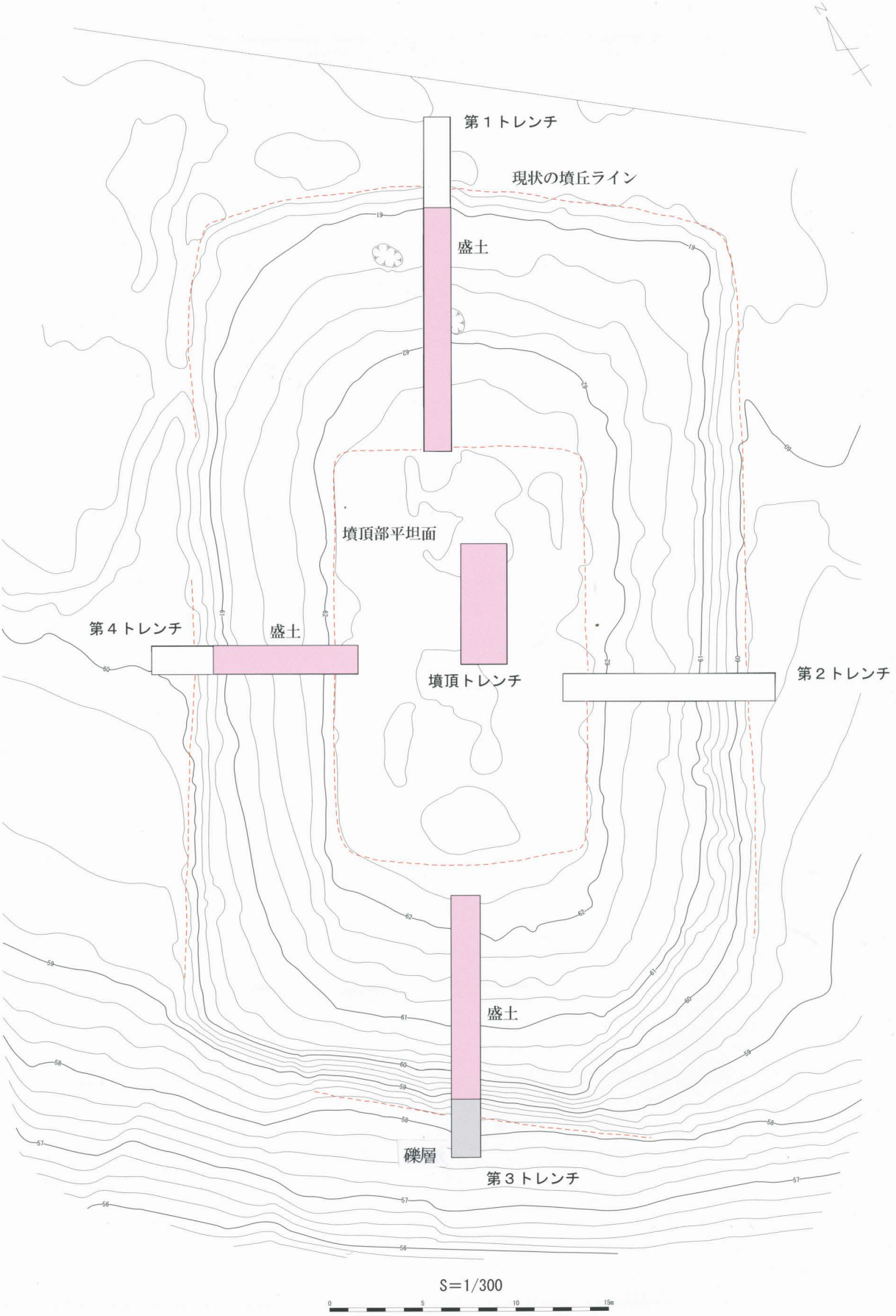
富山大学杉谷キャンパス内にある杉谷古墳群は、標高60～70mの丘陵上に立地します。古墳群は、四隅突出墓の4号墓（4号古墳）や前方後方墳の1番塚古墳など11基からなります。弥生時代終わり頃（3世紀前半）の墓としては北陸最大級の約45mの規模をもつ4号墓は、山陰地方以外では初発見の四隅突出墓として全国的に知られています。また、1番塚古墳は、古墳時代前期（3世紀後半～4世紀頃）の築造と考えられています。

杉谷6号墳（6号古墳）は、昭和49年に富山市教育委員会が発掘し、長さ45m、幅30m、高さ約2mの規模をもつことが明らかにされました。しかし、遺物は発見されませんでした。

富山大学人文学部考古学研究室では、今年から3年間の予定で、杉谷古墳群の変遷過程や「邪馬台国の時代」の富山を探ることを目的に調査・研究を開始しました。

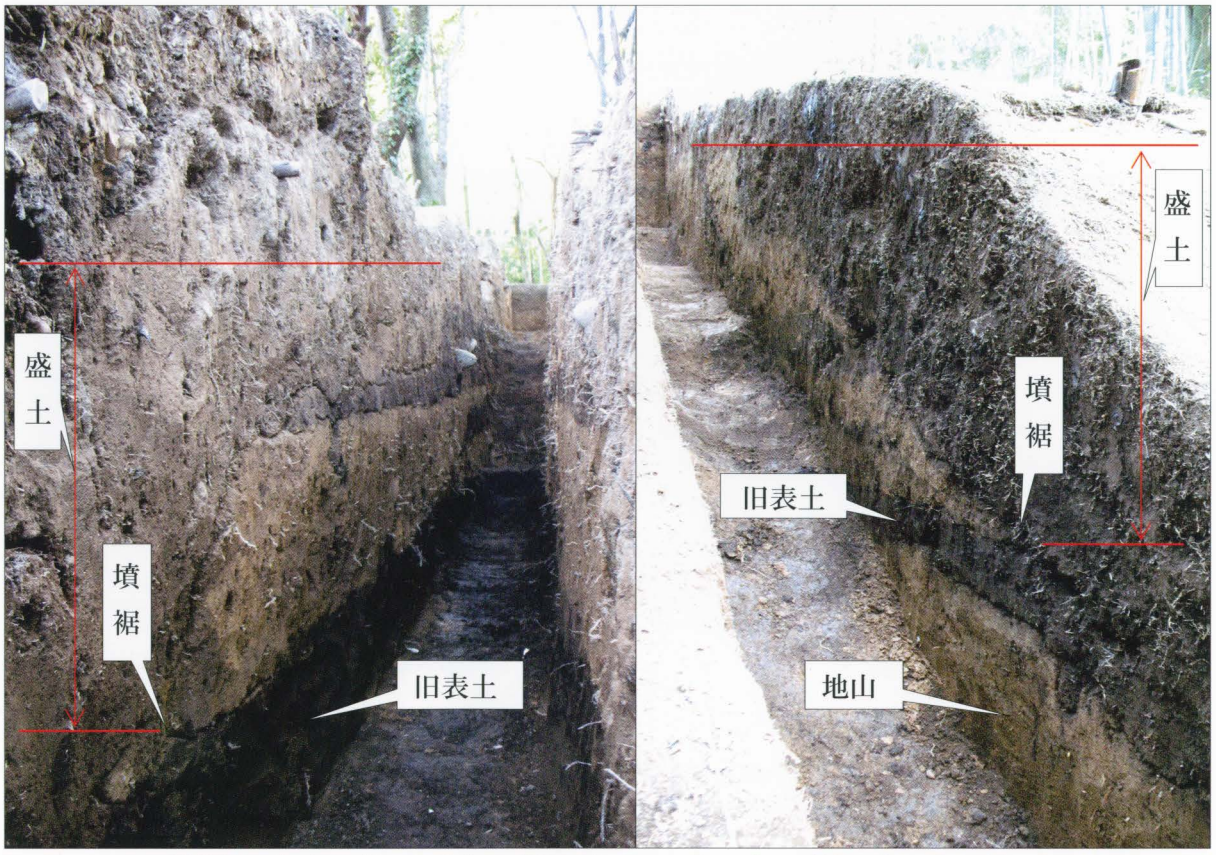


杉谷古墳群の分布図



杉谷６号墳トレンチ配置図

墳丘全景



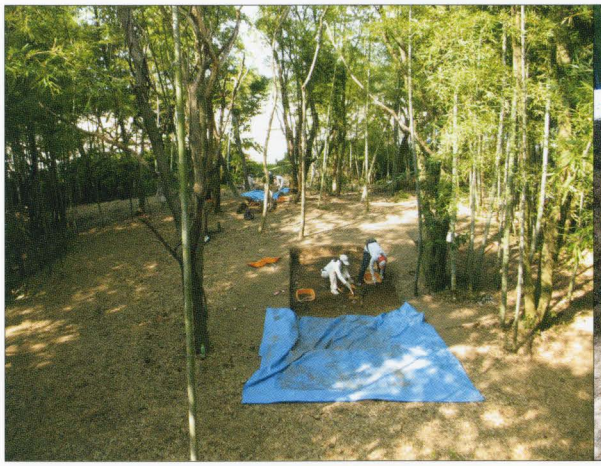
墳裾と盛土の状況（左：第１トレンチ、右：第４トレンチ）

調査成果

今回の調査では、墳丘の測量と、墳丘及び埋葬施設の確認のための発掘を行いました。その結果、次の成果が得られました。

1．現状の墳丘は、長さ約51m、幅約30mの長方形であることが測量調査でわかりました。
2．墳丘の発掘では、第1トレンチと第4トレンチで墳裾が確認されました。また、第3トレンチでは墳裾から下側に礫層が見つかりました。
3．墳丘は、旧表土の上面に地山起源の黄褐色土と旧表土起源の黒褐色土とを水平に積み上げた後、周囲から黄褐色土と黒褐色土とを互層に盛土して築いていることが明らかになりました。
4．第3トレンチの礫層は、墳丘南側の平坦部にかけて確認されました。
5．墳丘は、現状よりも一回り小さい長さ約49mの長方形であることが明らかになりました。墳丘の高さは北側で約2.5m、南側で約3.5mです。周溝はないようです。
6．墳頂トレンチでは、地表面から約1m掘り下げました。ここでも黄褐色土と黒褐色土とを周囲から互層に盛土している様子が確認されました。なお、確実な埋葬施設の痕跡は今のところ見つかっていません。
7．遺物は、弥生から古墳時代の土器と縄文土器が各1点出土しています。
8．今回の調査では、築造時期を具体的に判断する遺物はまだ出土していません。築造時期の解明は今後の課題です。

（髙橋 浩二）



墳頂部の様子

墳頂トレンチの盛土の状況

＊今年度は平成22年度「富山第一銀行奨学財団助成金」及び「富山大学学長裁量経費」を得て調査を行いました。

富山市杉谷6号墳 現地説明会資料
編集：富山大学人文学部考古学研究室
発行：平成22年9月4日
URL http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/kouko/

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。